

# 顕 彰 状

アマルティア・クマール・セン氏は、1933年インド・ベンガル州シャンティニケタンに生まれた。1953年カルカッタ大学プレジデンス・カレッジ卒業後、ケンブリッジ大学トリニティー・カレッジに留学し、1955年にB.A.、1959年にPh.D. (経済学) を取得している。1956年、23歳でジャグプール大学 (カルカッタ) の経済学部長となり、その後、デリー・スクール・オブ・エコノミクス、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス、オックスフォード大学ナッフィールド・カレッジの経済学教授、さらにオックスフォード大学オールソウルズ・カレッジのドルモンド政治経済学教授を歴任し、1988年ハーバード大学ラモント特任教授及び経済学・哲学教授に就任した。1997～2004年に母校ケンブリッジ大学トリニティー・カレッジの学寮長を勤め、2004年から現職であるハーバード大学ラモント特任教授及び経済学・哲学併任教授の任にある。この間、1984年にエコノメトリック・ソサイエティ会長、1986～1989年に国際経済学会会長、1989年インド経済学会会長、1994年アメリカ経済学会会長を務めている。

氏は、規範的経済学および正義論を中心とする倫理学・政治哲学など、多岐にわたる学術分野の発展に重要な貢献を行ってきた。規範的経済学への主要な貢献は、厚生経済学の情動的基礎の再構築と社会的選択理論の創造的な革新にあり、1998年にその顕著な貢献を理由にノーベル経済学賞が授与された。氏は、本学名誉博士であるケネス・アロー氏を嚆矢とする社会的選択理論の射程を遙かに越えて研究領域を拡張したが、その過程で効率性至上主義と決別し、所得や富の分配の公平性、社会的選択における自由主義的権利、貧困と飢餓の理論と計測のための分析的枠組みを展開して、血の通った厚生経済学の軌道を敷いた。また社会的選択理論がひとつの福祉の改善や、貧困・飢饉・飢餓など焦眉の経済問題を解決することに貢献できるように、純粋理論と公共政策との連結環を発見する作業にも、意欲的に取り組んできた。その一部は国連開発計画の人間開発指数に繋がり、すべての人類を射程に収めた人間の安全保障の確保と充実といった世界銀行などでの経済開発支援に結実した。

氏の規範的経済学の研究は一貫して自由論・権利論・民主主義論など倫理学・政治哲学への体系的な研究に裏打ちされている。ヨーロッパ啓蒙思想以降の正義論の系譜を、ジャン・ジャック・ルソー、イマヌエル・カントを経てジョン・ロールズに継承された社会契約論の系譜と、アダム・スミスに発祥してJ.S.ミル、アーサー・ピグーなどを経てアローに流れ込んだ系譜に大別し、完全な制度の追求ではなく不完全な現実の制度の比較を通じて正義の促進と不正義の抑制に向かう後者の正義論を擁護した。氏の議論は規範的経済学に革新を迫るだけでなく、政治哲学者、道徳哲学者の間に大きな波紋を広げている。本学においても、経済学だけでなく、倫理学、政治哲学、法哲学、地域研究などを専門とする教員や学生が氏の研究から多大な影響を受け、理論的研究と実践活動を融合させ人類の今日的課題の解決に向けて努力を続けている。本学における多数にのぼる授業で、氏の理論が紹介され議論されていることからその影響力が窺える。

また政治経済学術院がこの10年以上にわたり進めてきた、国際政治経済学科の設置、21COE、G-COE、実証政治経済学拠点形成などのプロジェクトに共通するPPE(Philosophy, Politics, and Economics)の理念を体現した社会学者として想起されていたのは氏であり、各プロジェクトの申請段階から氏の影響は強烈であった。このように、氏の研究教育上の業績は、日本で最初に政治経済学を教え始めた本学の教育と密接に関係しているだけでなく、本学の多くの教員ならびに学生が氏の学術的貢献に、直接的・間接的な影響を受けて研究を進めてきた。このことから、アマルティア・クマール・セン氏は名誉博士の称号を贈呈されるに誠にふさわしい。

ここに早稲田大学は、アマルティア・クマール・セン氏に  
名誉博士 (Honorary Doctor of Laws) の学位を贈ることを決定した。

学問の府に栄えあれ!

大学が栄誉を与えんとする者を讃えよ!

(*Vivat universitas scientiarum! Laudate quem universitas honorabit!*)